2024.05 No.46

たてやま おらがんまっち

南総祭礼研究会

柳塚

館山市船形地区

自慢の地域

船形地区は、明治二十二年に船形村と川名村が合併して生まれました。旧船形村の柳塚区は、旧村の内陸を主に、船形漁港まで海とつながる二百五十世帯ほどの地域です。岩船地蔵尊は、かつて柳塚が漁業で栄えた歴史をとどめます。

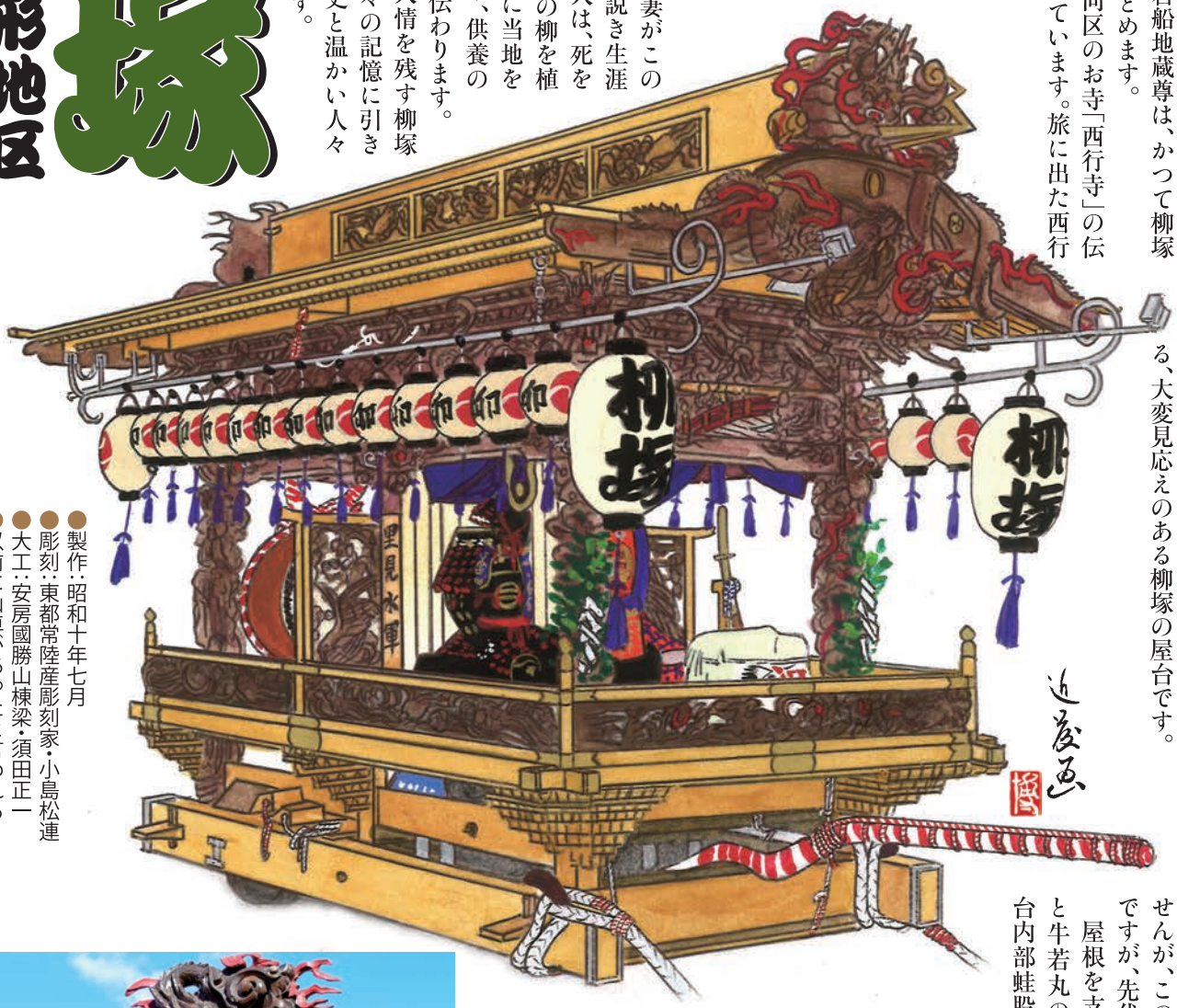
柳塚の地名の由来は、同区のお寺「西行寺」の伝説に由来すると伝えられています。旅に出た西行法師の後を追った尼僧の妻がこの地と出会い、仏の教えを説き生涯を終えました。慕った村人は、死をいたんで遺言により一本の柳を植えて塚を築きます。のちに当地を訪れた法師は深く悲しみ、供養のため西行寺を建立したと伝わります。

船形の美しい風土や人情を残す柳塚の伝説は、子々孫々と人々の記憶に引き継がれています。深い歴史と温かい人々に育まれた自慢の地域です。

地名の由来に関わる西行寺

自慢の屋台

房州地方に数ある山車・屋台に施されている彫刻は、房州後藤流によるものが圧倒的に多い中、房州では珍しい彫刻師〝小島松連〟の彫物が躍動する、大変見応えのある柳塚の屋台です。



- 製作：昭和十年七月
- 彫刻：東都常陸産彫刻家・小島松連
- 大工：安房國勝山棟梁・須田正一
- 以前に山車があったと言われる

屋台後方虹梁裏側に「昭和拾年七月新調、安房國勝山棟梁・須田正一、東都常陸産彫刻家・小島松連」の刻字が残されています。

まず大きな鬼板と破風に巻き付く二体の龍が目を見張り、箱棟にまで彫刻が飾られる屋台はあまり数を見ませんが、この箱棟彫刻の波に簑亀、龍などは彫刻師は不明ですが、先代にあった山車のものと伝われています。

屋根を支える美しい斗組と欄間彫刻には鳳凰や弁慶と牛若丸の五条橋、亀に乗る浦島と竜宮城の場面、屋台内部蛙股には地元産品の枇杷が彫られ、前方柱に龍、後方柱に鯉の滝登り、脇障子に松に鷹、勾欄には獅子に牡丹、波に簑亀と繊細でいきいきとした小島松連の彫刻がところ狭しと施されています。

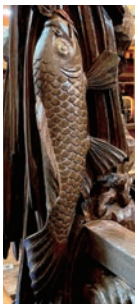
屋台勾欄下には泥幕はなく六本の柱に斗組が組まれており重量感が漂います。また方向転換をさせる梶棒のほかに、キリンという屋台を持ち上げて回転させる道具がつけられています。

船形祭礼には二つの地区から屋台が出祭しますが、そのうちの黒いほうの屋台が柳塚、昭和六十二年の大改修を経てますます魅力を増し、二尺の大太鼓の迫力の音を鳴り響かせながら曳き回す、柳塚の人々の自慢の屋台です。

鬼板の龍

屋台前面欄間彫刻

箱棟にある
先代の山車彫刻


鯉の滝登り

企画：南総祭礼研究会　お問い合わせ：南総祭礼研究会（TEL.090-1439-0493）